

令和6(2024)年度 学校評価

教育目標	自立と社会参加を目指し、一人一人の個性や教育的ニーズに応じた教育により、社会の中で主体的に生きることができる健やかで心豊かな児童生徒を育成する。
指導方針	「チームなとく」として、一人一人の実態を的確に把握し、教育的愛情をもって指導する。
目指す学校像	児童生徒がもてる力を高めて生き生きと活動できる学校
生活目標	明るく つよく 美しく

1 分掌部・各学部の目標及び評価

重点目標	(1)一人一人に応じた指導の充実 ・児童生徒の主体的な取組を大切に授業づくりの充実 ・家庭との連携を密にした生活力を高める指導の充実 ・不登校児童生徒への対応の充実 ・ICT(情報通信技術)を活用した授業実践の工夫	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
小学部	・児童の生活力を高めるために、児童一人一人の実態に合わせた指導を、保護者等や他の職員と情報共有し、「チームで」より効果的な指導に取り組む。	・保護者等懇談、連絡帳を通して保護者等と情報交換をし、実態、目標、具体的な実践の様子について、共通理解を図れたか。 ・学部会、学部懇談会、保護者等懇談の機会にホームワーク週間について共通理解を図り、家庭と連携した取り組みができたか。 ・工夫された実践例を学部内で共有できたか。 ・生活訓練棟を活用した実践的な取り組みができたか。 ・ホームページを活用し、学習の様子や指導の工夫について、情報発信することができたか。
中学部	・「職業・家庭」「生単」の授業などで、生活に関する活動を生徒の実態に応じて指導を充実させ、家庭でも取り組みやすくなるように保護者等に情報を発信する。 ・中学部の授業や生徒の様子をホームページなどで保護者等に情報発信し、情報共有の機会とする。	・「職業・家庭」「生単」の生活に関する指導法を見直して充実させることができたか。 ・生活に関する授業の取り組みを定期的に保護者にフィードバックできたか。 ・長期休みには家庭での手伝いとして取り組める活動を提案して、家庭でも実践してもらい家庭での様子を伝えてもらうことができたか。 ・ホームページを活用して、週1回程度授業の様子を発信することができたか。 ・特に生活力を高める「職業・家庭」「生単」などの授業の様子を発信できたか。
高等部	・担任等、学部主事、生徒指導部、関係職員が連携し、不登校生徒への対応の充実を図る。 ・家庭と連携し、自力通学に向けた取組を推進する。	・不登校の傾向を逃さずに、チームで情報共有ができたか。 ・組織的な対応ができたか。 ・適切な支援が実施できたか。 ・家庭や関係機関と連携し、対応できたか。 ・一人でも多く、自力通学に変更できたか。 ・部分的な自力通学ができる生徒が増えたか。 ・家庭と連携し、練習計画の作成や練習のサポートができたか。 ・保護者等へ自力通学の必要性を十分に説明できたか。
訪問教育学級	・様々な情報技術を授業で活用し、なす療育園の集団学習に各家庭児童生徒が参加する機会を確保し、つながりを重視した授業実践を進める。 ・移動が難しい児童生徒の学習経験拡大につながる新たな取組について検討し、活動の充実につなげることができる。	・日常的に使用機会を設け、友達や教師とのつながりを意識した授業を実践することができたか。 ・実施後の振り返りや授業研究会を通して、ICT機器を効果的に活用した授業実践を蓄積することができたか。 ・スクーリング、校外学習、行事等でのICT機器活用を検討し、実践できたか。
教務部	・充実した授業作りや行事のための基盤を整える。	・職員のスキルアップのために研修会を企画・運営できたか。 ・外部研修の周知や受講のサポートを丁寧に行うことができたか。 ・教科用図書の活用を推進し、授業実践や教材の紹介ができたか。 ・帳簿の管理を徹底し、教材の整理や迅速な修繕に努めたり、効果的な教材について随時紹介したりすることができたか。 ・儀式(始業式・終業式・卒業式)の実施方法を確立し、より充実した式を実施することができたか。
学習指導部	・校内研究等を通して研究や話し合いを深め、児童生徒の主体的な取組を大切に一人一人に応じた授業作りに生かす。	・校内研究を通して事例検討会や授業研究を行い、学習指導の充実を図ることができたか。 ・アセスメントを正しく行い、児童生徒を客観的に理解することができるよう、検査やその方法等について職員に向けて案内することができたか。 ・自立活動指導充実事業等により事例研究等を行い日々の指導に役立てることができたか。 ・ホームワーク週間を実施し、家庭との連携を図ることができたか。
特別活動部	・各活動や行事において、児童生徒が主体的に取り組める活動内容を工夫し、行われた活動の内容や児童生徒の様子を保護者等だけでなく地域に対して適切に情報発信する。	・行事当日だけでなく、前後も含めて児童生徒の主体的な活動を盛り込むことができたか。 ・他の分掌部と連携を図り、校内外に対してホームページや広報誌で適切な情報発信を行うことができたか。

重点目標	(2) 安心・安全な学校環境の整備と危機管理体制の充実 ・ICTを活用した安全対策の充実 ・実践的な防災安全教育の充実 ・危機管理マニュアルを活用した職員研修の充実	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
生徒指導部	・新たに完成した危機管理マニュアルをもとに、情報部と連携したICT(安否確認システム等)を活用した引渡し訓練を実施する。 ・いじめ問題について、「いつでも、どの学校においても起こる」認識をもち、教職員一人ひとりが自分事として捉えられるよう啓発しながら、教育的解決策や再発防止策を講じる。	・訓練等を通じて教職員一人一人の防災意識を高めることができたか。 ・危機管理マニュアルに沿った基本的な対応を適切に行うことができたか。 ・ICT(安否確認システム等)を活用した新しい訓練等を実施することができたか(今後の活用に向けて課題を把握することができたか)。 ・いじめ情報共有シートを適切に活用することができたか。 ・教育的解決や再発防止に向けて、適切な取り組みや対処ができたか。 ・必要な啓発や研修を適宜実施することができたか。
寮務部	・大きな地震の続いている昨今、舎生全員の安全を確保するため、避難態勢をとる訓練(ショート訓練)を月に1度実施し、より実践的に、告知なしでの訓練を実施する。	・告知がなくても、舎生は場に応じた避難態勢をとり、安全を確保することができたか。また、職員は全舎生の安否を確認、把握することができたか。 ・夜間の職員が手薄な時間帯や、就寝後を想定した訓練を実施し災害に備えることができたか。
健康指導部	・児童生徒が健康、安全に学校生活を送るために、病気や感染症の対策をし、環境を整備する。	・病気や感染症対策を適切に実施し、掲示板等を通して病気や感染症の情報、対応方法を共有することができたか。 ・救命救急法の研修会やプール活動実施前の講習を実施し、緊急時や熱中症等への対応を適切に行うことができたか。 ・安全点検等を適切に行い、不具合や危険な個所に早期に対応することができたか。

重点目標	(3)保護者等、地域との連携の充実 ・ICTを活用した適切な情報発信の工夫 ・適切な情報交換による共通理解の促進 ・地域活動の一層の充実と啓発活動の推進	
担当部等	重点目標を達成するための目標 (評価項目)	評価の観点(具体策)
情報部	・学校ホームページを、より見やすくするとともに、適時適切な情報発信をすることで、保護者等や地域との連携を充実させる。	・スマートフォンでも見やすいレイアウトにすることができたか。 ・更新の手続きを簡素化したり電子化したりするなど、新しい記事を迅速に公開するためのシステムを構築することができたか。 ・各校務分掌部や各学部と連携し、内容を充実させたり更新の頻度を高めたりすることができたか。
地域支援部	・地域との交流活動やニーズに応じた事業を行うことで、本校についての理解や地域との連携を深める。	・地域のニーズに応じた事業(学校公開、公開研修、巡回相談など)を計画・実施し、センター的機能を果たすことができたか。 ・地域の方との交流活動や地域の活動へ参加するなど相互理解を深めるための活動を実施することができたか。 ・交流活動をはじめ、本校の教育活動の様子をホームページや地域だより「ほほえみ」などにより伝えることができたか。
進路指導部	・学校卒業後の進路状況や課題を確認し、保護者等へ居住地域の進路情報を分かりやすく適切に提供していく。	・保護者懇談等を通して、各学部ごとの保護者等が進路に対する興味・関心や課題等を収集することができたか。 ・「福祉施設説明会」では、保護者等、福祉事業所双方の要望や課題を収集することができたか。 ・進路指導部内で、定期的に情報の共有化を図るとともに、各学部へ伝え情報の共有を行い、保護者懇談等で伝えることができたか。 ・研修会等を行い、卒業後の進路について情報共有や意見交換を行うことができたか。
渉外部	・会員および地域等で連携して、PTA活動のより一層の充実を図る。	・それぞれのPTA活動について、会員に理解してもらえるよう説明をしたり活動の補助をしたりすることができたか。 ・会員との話し合いを行いながら、各活動を積極的に行うことができたか。 ・実施したPTA活動について、PTA新聞やホームページに掲載することができたか。